

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会

ブロック研究大会ポスター報告会

近畿ブロック（担当：和歌山県リーダー代表者 神保 拓海）

<p><b>テーマ</b></p>	<p><b>スローガン：「KINKI step by ステップ。」</b>  <b>～今までの成果を糧に更なる発展～</b>  <b>大会テーマ：繋いだ道 ～legacy road～</b></p>
<p><b>テーマ 設定理由</b></p>	<p>1巡目は「近畿はひとつ」をスローガンに親睦を深め、2巡目は「ステップup近畿～資質・技術・連帯感～」をもとに本質を見直し、進歩した近畿を目指してきました。3巡目では「近畿全体で若手指導者育成の足並みを揃え、成果が確実に見えるような議論を」とスタートしてきました。1巡目、2巡目で築き上げたものを土台に成長していく過程で、それぞれが前に進むために、刺激しあい進化を遂げられる研究大会にしたいという想いでこのスローガンになりました。「step by ステップ」には、着実に一步一步コツコツと、という意味や、以前の歩みあってこそその歩み、といった意味が込められています。着実に現実を見つめながら、近畿一丸となって進んでいきたいという想いです。今回リーダー研究大会3巡目の終盤を迎えるにあたり、サブタイトルである～今までの成果を糧に更なる発展～をより深く掘り下げ、現在に至るまでに繋いだ道を再確認しより未来に向けた道を繋げるようディスカッションしていきたいと思いテーマを前年の全国リーダー連絡会においてブロックにて確認をしテーマ設定しました。</p>

◆**期日**

平成30年6月2日(土)～6月3日(日)

◆**場所**

和歌山県立紀北青少年の家（和歌山県）

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会

ブロック研究大会ポスター報告会

近畿ブロック（担当：和歌山県リーダー代表者 神保 拓海）

## ◆参加対象

リーダー（若手・中堅・ベテラン）、育成担当指導者（若手・ベテラン）

## ◆参加者（内訳）

	和歌山 県	大阪府	京都府	滋賀県	兵庫県	奈良県	合計
リーダー	3名	2名	3名	2名	3名	0名	13名
育成担当 指導者	3名	2名	2名	2名	2名	0名	11名
合計	6名	4名	5名	4名	5名	0名	24名

## ◆経費

参加料：無料 旅費：参加者負担

## ◆運営スタッフの体制・運営方法

開催県が運営準備、開催県リーダー会会員・育成担当指導者が開催準備

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
 ブロック研究大会ポスター報告会  
 近畿ブロック（担当：和歌山県リーダー代表者 神保 拓海）

◆日程

1日目：6月3日（土）	2日目：6月4日（日）
14：00 受付	6：30 起床・洗面・朝のつどい
14：30 開会行事・オリエンテー ション	清掃・荷物整理
15：00 近畿ブロックスポーツ少年 団スポーツ少年大会について	7：30 朝食
15：30 交歓交流活動	9：30 救命・スポーツ実践活動
16：00 障がい者スポーツ 「ボッチャ」実践	10：30 分散会③
17：00 分散会①	12：00 昼食
18：00 夕食	13：00 分散会④
19：30 研究分散会② 「トレーナを学ぶ」	14：00 全体会
20：30 入浴・就寝	15：30 閉会行事

## ◆プログラム概要

### 1. 近畿ブロックスポーツ少年団 スポーツ少年大会について

近畿ブロックでは、近畿ブロック研究大会の翌年にブロックのスポーツ少年大会を開催するよう取り決めており、当年度は兵庫県が開催されるので、現在決まっているプログラムやテーマ等を和歌山県開催の研究大会において共有し、各府県持ち帰り周知されるよう依頼をしました。

また大会開催時においてリーダーのおかれている役割等についても発表しました。



## ◆プログラム概要

### 2. 交歓交流活動

研究大会の開催のスタートとして交歓交流にて交流を深め、分散会にておいてより質のよいディスカッションが行えるように、交歓交流活動を行いました。交歓交流活動のプログラムにおいてはACP等を含めて実施しました。

### 実施プログラム

- ・ ACP



## ◆プログラム概要

3. 障がい者スポーツ「ボッチャ」実践  
幅広いスポーツ少年団活動とリーダーから指導者へのプロセスの中で、新しい見地を発掘するために、パラリンピック種目でもあるボッチャの実践活動を行いました。開催市にて活動されている、総合型地域スポーツクラブの指導者を招いて、ボッチャ体験と審判についての指導をしてもらいました。



## ◆プログラム概要

### 4. 研究分散会 「トレーナを学ぶ」

スポーツ少年団活動の中で団員からリーダー、そしてリーダーから指導者へのプロセスの中で、正しい知識を身に着け、正しい理解のもとに指導を行えるように、講習を受けました。①子どもの成長、②ストレッチ、③レジスタリングトレーニング、④幸せに・かっこよく・モテモテになる方法について実際のストレッチや遊びトレーニングを取り入れながら説明を受けました。

終了後に。質疑応答を実施し、リーダーや指導者においても非常に有効な講習を聞くことができました。



## ◆プログラム概要

### 5. 救命・スポーツ実践活動

スポーツ少年団活動を行うなかで、急病人やけが人が起こった際に、正しい対処法を実施できるように講習した。

研究大会に参加している指導者（救急救命士）の指導による、AEDの使用実践をはじめ脈拍の測り方、止血の仕方、搬送要領、やけどの対応方法、過呼吸状態の対応、ホームシックにおける対処等、スポーツ少年団に関わるリアルな体験について学んだ。



# 令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会 ブロック研究大会ポスター報告会 近畿ブロック（担当：和歌山県リーダー代表者 神保 拓海）

## ◆プログラム概要

### 6. 分散会

#### 分散会 1・3・4

（リーダー：若手、中堅、ベテラン）

#### ●若手リーダー

- 1) 府県での役割と単位団での活動(情報交換)
- 2) 平成30年の具体的スケジュール関わり(情報交換)
- 3) 中堅、ベテランになるための目標(ディスカッション)
- 4) 4巡目のスローガン(ディスカッション)

#### ●中堅リーダー

- 1) 成長の証と目指すべきゴール地点(ディスカッション)
- 2) 平成30年の具体的スケジュールと関わり方  
(情報交換・ディスカッション)
- 3) 4巡目のスローガン(ディスカッション)

#### ●ベテランリーダー

- 1) リーダーとして歩んできた道
- 2) リーダーとして歩んでいく道
- 3) 平成30年の具体的スケジュールと関わり
- 4) 4巡目のスローガン



## ◆プログラム概要

### 6. 分散会

分散会 1・3・4

（指導者：若手&ベテラン）

### ●指導者

- 1) 1巡目、2巡目、3巡目の振り返りと4巡目（奈良県）にむけて
- 2) 歩んできた道
- 3) 歩んでいく道
- 4) 組織的役割について  
（大会主旨の確認、意義、方向性）
- 5) 4巡目のスローガン
- 6) 他ブロックとの共催
- 7) 日本スポーツ少年団の方向性
- 8) その他



## ◆大会を開催した成果、反省、課題

### 成果

今年度の大会において特別成果を発生させたわけではないが、持ち回り開催において、スローガンを共有し大会テーマを掲げて大会を実施する事により、各参加カテゴリにおいて学習し、明日につなげるための活動を実施できたと思う。また4巡目に向けての協議も実施することができたので、引き継いで実施されていく事ができればよいと思います。

### 反省

定められたスケジュールの中で、大会運営をしたのでプログラムの合間合間が過密状態になり、プログラムごとに質疑や実践時間を多く確保することが出来なかったので参加者に不便をかけてしまいました。



## ◆大会を開催した成果、反省、課題

### 課題

大会自体における課題については、指導者内にてディスカッションを実施した。運営規模や運営方法について、引き続き取り決め事項として繋いでいく事と、全国リーダー連絡会の開催時期変更等において対応を検討し次年度以降の開催方法について、当研究大会の次年度以降の方向性を検討した。また参加者自身における課題については各カテゴリにおいて参加協議することにより認識することができた。

## ◆昨年度の全国リーダー連絡会で協議・検討したことが

どれくらい活かされたか

基本的にはブロッカー巡において、スローガンを定め、大会府県の個別テーマとして大会を引きついで実施している為、成果については十分に活かされていると思います